

特集

旅立ちへの思い

～思い出と決意を胸に～

卒業・修了する学生からのメッセージ

人文学部情報文化課程 p4 酒井 淳

教育人間科学部学校教育課程 p4 佐久間 史信

法学部法学科 p5 山本 淳

経済学部経済学科 p5 柳 沼 大 介

理学部物理学科 p6 長 島 正 幸

医学部医学科 p6 三 浦 健

医学部保健学科 p7 島 田 真 至

歯学部歯学科 p7 石 坂 淳 子

工学部建設学科 p8 中 澤 晶 子

農学部農業生産科学科 p8 二 木 明 日 香

大学院保健学研究科 p9 澤 田 杏 子

大学院現代社会文化研究科 p9 シャドリナ・エレーナ

大学院自然科学研究科 p10 藤 巻 亮

大学院医歯学総合研究科 p10 吉 原 弘 祐

卒業にあたって―感謝と決意―

人文学部 情報文化課程 >>> 酒 井 淳

大学生活では、講義を通して多くの人と知り合うことができました。

特に、1、2年次には教養科目で他学部・他課程の方とたくさん話す機会がありました。一見異なる性質をもつ学問が、実は相互に深く係わり合っていることを認識することができました。総合大学の特色を生かした知の共有やネットワークは、その後の専門科目の学習や就職活動でも大変役立ちました。

私が大学生活で得たものは知識だけではなく、「知恵」です。どのように情報を集め、物事を客観的に判断していくかという方法を多く学ぶことができました。本学には世界に誇れる専門知識、特色を持った人材や環境が揃っております。異なる専門領域の方と関わっていくなかで、私達を取り巻くあらゆる問題に対して、様々な角度から取り組んでいくことが必要だと強く感じました。

本学の今後の発展に期待するとともに、私自身も大学で学んだ「知恵」を社会で活かしていきたいと考えております。

● SAKAI, Aki



2005新潟大学「異文化コミュニケーション」合宿。
本人は前列左から4番目。



春日山城にてゼミの仲間や教授と。
本人は後列右端および右上。

最高の贈り物

教育人間科学部学校教育課程 >>> 佐 久 間 史 信

卒業を目前に控えて、高校の卒業文集に載っていた、ある先生の文章の一文を思い出した。

「これから君たちが過ごす大学四年間という時間は、親が与えてくれる最高の贈り物だ。」

思い返してみると、私の大学生活はいたって地味なものであった。そんな中で、日々の生活に彩を添えてくれたのは様々な人との関わりであった。大学で学ぶことの楽しさ、大変さを分かち合ったゼミや学科の仲間。学外での活動をともしたまなび屋の仲間。教師を目指す私を温かく迎え入れてくれた小中学校の子どもたちと先生方。歴史学という学問の奥深さを教示し、出来の悪い私を励まして下さった指導教授。私にとって、四年間という時間に包まれた「最高の贈り物」の中身は、大学生活を通じて得た、こうした人たちとの出会いであった。お世話になった方々に深く感謝したい。そして、そのような贈り物を私に与え、学生生活そのものを支えてくれた家族に、この場を借りて謝意を表したい。

● SAKUMA, Fuminobu

卒業・修了する 学生からのメッセージ

e s s a g e

新潟大学を卒業・修了するに当たっての思い

法学部法学科 >>> 山本 淳

「もっと色々な人と出会いたい」というのが、編入生(3年次編入)である私の卒業にあたっての率直な思いです。

高校生や専門学生時代と同様に、学校の中では色々な学生や先生方との出会いがありました。もちろん、その出会いも私にとって重要なものですが、今の私にとって、より重要なのは、学外での出会いでした。毎年、夏には交流ディスカッションを行うことで複数の他大学の学生と出会い、3年の後期には就職活動により全国で多くの就活生と出会い、10月にはワークショップの運営に携わることで色々な業界の社会人と出会えました。

学外での出会いのチャンスが充実しているため、大学では色々な刺激が生まれ、そしてその連続が、社会人に向けての経験値となっていくのではないのでしょうか。これが、大学での『出会い』の特徴だと、私は考えます。できることならば、大学でしか味わえないこれらの出会いを、まだまだ味わい続けたいものです。

YAMAMOTO,Jun

卒業にあたって

経済学部経済学科 >>> 柳 沼 大 介

入学式でのどきどきが昨日のここのように感じられる…まさに光陰矢のごとしです。私の新潟大学での4年間は毎日が充実していて楽しくて、本当にあっという間でした。できることならば、もう少しこのまま大学生を続けていたいのですが、社会が私を呼んでいるので諦めましょう。

どうしてこんなに充実した毎日を送れたのか、それは自分の好きなことを思う存分やれたからです。ときには家でだらだらと一日過ごしたり、ときにはぱらりと旅に出たり、ときには毎日のように飲み歩いたり…ああ学生って素晴らしい。そんな充実した毎日の中にはもちろん大学で真剣に勉強したこと、アルバイトでへまをしたこと、一生の仲間と出会えたこと、書ききれないほどの経験がありました。この新潟大学での4年間のおかげで今の私があり、これからはあるのだと思っています。

YAGINUMA,Daisuke



横国大・東工大との交流ディスカッションにて。



研究室の担当教官、および研究室の仲間と一緒に。
本人は右から2番目。

大学生活を振り返って

理学部物理学科 >>> 長 島 正 幸

新潟大学で過ごした四年間は素晴らしいものだったと思います。四年間で、多くの事を学ぶことができました。

新潟大学は勉強するための環境が充実しています。特に図書館は夜遅くまで開いていたので、試験期間中はよく図書館で勉強をしました。四年生になって配属された研究室は実験設備も整っており、何不自由なく研究する事ができました。

周りの人達にも恵まれました。先生方の講義は丁寧で、質問すれば熱心に教えて下さいました。ひとつの問題を友人達と取り組んで解決したことも、とてもいい経験になりました。

今にして思えばあっという間の四年間でしたが、この大学生活で得た経験は、きっと自分を成長させてくれたと思います。新潟大学で学ぶことができ、本当によかったです。

NAGASHIMA,Masayuki

卒業にあたって

医学部医学科 >>> 三 浦 健

大きな期待と不安がないまぜになった入学式も、今は懐かしく思い出される。

海・山・川、豊かな自然と食に恵まれ、四季折々の景色が広がる新潟。ここでの6年間は友人、先輩、後輩との出会いに満ち、夢中になれるものがあった。先生方、そして何より患者さんから多くのことを教わった。雪深く厳しい冬に言葉を交わさなくともそっと道を譲り合う、そんな人々の優しさ、温かさに触れた。この地で医師となり、医療に携わりたいという想いはいっそう強くなった。

経済状況、少子高齢化、国際化等、今私達を取巻く環境は劇的に変化しており、卒業後も困難に直面することがあるだろう。しかし、仲間と共に情熱をもって向き合えば、必ず乗り越えられると信じ、目の前の患者さんに全力を尽くせる医師になりたい。そして、新潟大学で得た広く深い視野と知識を生かして社会に貢献し、放鳥された朱鷺のように、大きな世界、未来に向けて飛躍出来るよう、努めていきたい。

MIURA,Takeshi

卒業・修了する
学生からのメッセージ

e s s a g e

大学生活を振り返って

医学部保健学科 >>> 島田 真至

アツと言う間の大学生活だった。4年という歳月は一生のほんの1部分ではない。しかし、大学での4年間は一生の内の大きなウェイトを占める濃密な時間となった。様々な人や物事に会い影響を受け、成長することができた。4年間所属した探検部もその中の一つだ。探検部でラフティング(激流川下り)に出会い、僕は川の虜となった。「より激しく、より楽しい川を下りたい」その思いはいつしか「自分の技術はどこまで通用するのだろう」に変わり、大会で優勝するまでになっていた。チームメンバーには生まれてきてくれたことを感謝し涙を流した。部員は寝食を共にし、同じ感動と苦楽を共有してきた家族のような存在になっていた。ここまで打ち込めるものと出会えたこと、そして、存在自体に感謝できるほど深く人と関われたことは、自分の人生において掛け替えのない財産となった。この財産を胸に、看護に打ち込み、深く患者さんに関わっていけたらと思う。

SHIMADA,Masashi ●



第31回日本リバーベンチャー選手権大会にて。
本人はラフト(船)上の右端。

6年間を振り返って

歯学部歯学科 >>> 石坂 淳子

月日が経つのは早いもので、大学生活も残り僅かとなってしまいました。親元を離れ、新潟での一人暮らしに初めは寂しさで一杯でしたが、今はこの生活が終わってしまうのが名残惜しいです。そんな風に思えるのも、この6年間、毎日が本当に楽しかったからだと思います。楽しい事も辛い事も、クラスの皆がいたから頑張てこられました。

皆が歯科医師になるという共通の目標を持ちながら、抱く夢は十人十色という環境の中で、私自身も自分の将来に真剣に悩み、理想の歯科医師像を見つける事が出来ました。特に、患者様と接する機会を与えて頂けたことは、何事にも換えがたい貴重な経験です。

素敵な仲間に出会い、尊敬出来る先生方に囲まれ、家族を含め多くの方々に支えられて過ごしてこられた6年間…振り返ってみると溢れてくるのは感謝の言葉ばかりです。本当にありがとうございました。大学での思い出を心の糧に、夢に向かって邁進していきたいと思います。

ISHIZAKA,Junko ●



技工室にて歯学部の仲間と一緒に。
本人は左から2番目(椅子に座っています)。



学科の仲間と一緒に。筆者は後ろから2列目の左から8番目。

卒業を迎えて

工学部建設学科 >>> 中澤 晶子

大学での学生生活が終わろうとしている。長かったような、それでいて短かったような4年間を振り返ると、達成感と後悔とが入り混る複雑な気分になる。

私の大学生活は二つのことで占められていた。一つは邦楽部に入り、尺八という楽器を演奏する喜びを知ったことである。部活動での思い出は辛く苦しいものも多かったが、どの経験も自分の糧となったと思う。もう一つは建築学コースで学んだことである。同学年の仲間の課題に真剣に取り組む姿はとても良い刺激となった。課題で苦しんだことさえも、今となっては楽しい思い出である。

卒業を前にして、「私が大学を卒業できるのは決して私自身の力ではない」と強く思う。進学させてくれた家族はもちろんのこと、友人、先輩、後輩、先生方、色々な人の力を借りてここまでたどり着くことができ、感謝の気持ちでいっぱいである。大学での4年間の思い出と経験を大切にして、これからの日々を過ごしていきたいと思う。

● NAKAZAWA,Akiko

卒業するにあたっての思い

農学部農業生産科学科 >>> 二木 明日香

この4年間は今までで一番考え、感じ、成長した4年間でした。特にソフトテニス部で過ごした時間には特別なものがあります。団体優勝という目標に向かって自分にできることを必死にやった三年の秋の北信越大会。能動的に動くことの充実さを知り、団体優勝を果たした時には知らないうちに涙がでていました。一方で、仲間を支えられなかった時の喪失感やがんばりきれない自分の弱さも知り、今の自分の中で課題として活きています。一緒に戦った仲間からは、認める大切さや、一言の重さ、相手を思いやることの温かさを教わりました。親切は本当に伝染しやすい。つらいことも多かったはずなのに、楽しく尊いことばかり思い出すのはみんなのおかげです。

学費200万円分の知識が身に付いたかはわかりませんが、それ以上の価値ある経験と思い出と出会いを得て、私はこの大学を卒業します。大学で学んだことを活かし、春からは精いっぱい社会に貢献していきます。

● FUTATSUGI,Asuka

卒業・修了する
学生からのメッセージ

eSSaGe

生涯の貴重な宝

大学院保健学研究科 >>> 澤田 杏子

私は国際看護学を学ぶため、県外の大学卒業後、新潟大学大学院保健学研究科へ入学した。看護職としての臨床経験のない私にとって大学院生活は不安と期待の想いであつた。

大学院生活における社会人入学学生との出会いは、学生生活経験しかない私にとって非常に刺激的で新鮮なものであつた。授業は理論的な思考能力やプレゼンテーション技術を習得する為の講義が多く、私は特に国際看護学における保健師の意識変容について研究してきた。

在学中に参加したミャンマー国際看護学研修では、開発途上国における異文化看護に触れ、看護の国際的視点を再確認することができた。

4月からは県内の市役所で保健師として働く予定であり、大学院で学んだ専門性や研究能力を活かし、地域住民への看護ケアを実施していきたい。2年間の大学生活は指導教員や多くの同級生にも恵まれ、有意義な学生生活を過ごすことができ、私にとって「生涯の貴重な宝」である。

SAWADA, Kyoko



ミャンマーの小学生、院生仲間と共に。本人は後列左。

4年が飛ぶように過ぎた...

大学院現代社会文化研究科 >>> シャドリナ・エレナ

私は幸いなことに新潟大学で4年間勉強することができました。最初、経済学部の研究生になり、日本語や日本文化に魅力を感じながら、楽しく勉強しました。

2006年4月から大学院現代社会文化研究科(博士後期課程)の大学院生として、「エネルギー協力を通じた東北アジアにおける地域主義」について研究してきました。勉強の環境が良く、色々な意味での支援もきちんとしていたおかげでこのテーマの研究を深め、さまざまな会議や学会に参加し、研究発表もすることができました。その機会に、世界的に有名な研究者に会い、意見交換をし、自分の研究をさらに深く理解することもできました。

国費留学生になれたので、このような素晴らしい経験を積むことができたと思います。文部科学省に厚く感謝申し上げます。指導教員の小山教授を始め、現代社会文化研究科や学務系のスタッフの方々にはたいへんお世話になりました。新潟大学での経験は一生忘れることができないでしょう。これからも日本とロシアの関係の発展を推進するために一生懸命努力したいと思います。

SHADRINA, Elena N



ヤングリーダーズ国際セミナー、富山市、2007年11月(中央が筆者)。



研究室の仲間と。本人左から2番目。

卒業するにあたっての思い

大学院自然科学研究科 >>> 藤巻 亮

平成21年の4月について新潟大学を修了する運びとなった。‘ついに’と言うのは学部、修士、博士と合わせて9年も在籍していたからだ。今までの人生の3分の1である。そう考えると本当に長く感じる。希望を抱いていた若者も、もう27歳、世間的には立派なおっさんになった。

大学生活で一番何に打ち込んだかというやはり研究なのかなと思う。研究では思うような結果が出せず、つらいこともあった。それでも、先生や研究室のメンバー、友人らに助けられ乗り越えることができ、また、充実した大学生活をおくる事ができた。私を支えてくれた大勢の方には感謝しても仕切れないくらいである。

さて、4月からは社会人になる。この世界規模の大不況もあつて新しい旅立ちに不安も少なからずあるが、新潟大学の名に恥じぬように学んだこと、経験したことを生かして社会の荒波を乗り越えていきたいと思う。

FUJIMAKI, Ryo



AACR 2008 annual meetingにて。

新潟大学大学院を修了するにあたり

大学院医歯学総合研究科 >>> 吉原 弘祐

2005年に新潟大学大学院医歯学総合研究科博士課程に入学し、2006年から研究に従事した。振り返ると、この3年間は研究中心の生活で、研究に没頭していたため、あっという間に時間が過ぎてしまった。「石の上にも三年」ということわざがあるが、なんとか3年間の研究成果をまとめ、大学院博士課程を修了することができ、ほっとしている。

3年間の中で最も心に残ることは、AACRのAnnual Meetingに続けて発表できたことである。新しいことに挑戦でき、またいろいろな分野の、いろいろな国の研究者とコミュニケーションをとる機会を得たことは、非常に良い経験となった。今後も大学院博士課程で学んだことを生かし、translational researchに携わっていけたらと考えている。

最後に、ご指導頂きました田中教授にこの場を借りて厚く御礼申し上げます。

YOSHIHARA, Kousuke

卒業・修了する
学生からのメッセージ

e s s a g e